

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	空飛ぶ三輪車・秋津保育所
施設所在地	東京都東村山市秋津町4-30-3
法人名	NPO法人 子ども自然探検隊 空飛ぶ三輪車

1. 活動のテーマ

<テーマ>

秋の実りを楽しむ① 木の実拾いから生まれる遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園の特色である野外保育の中でも、実りの秋はとりわけ自然物との出会いが多い。日常的に訪れる保育先にも秋口のある日を境に木の実があちこちに落ち始める。子どもたちにとっては昨日までは無かった物を見つけることが遊びになり、喜んで手に取ってみてすぐに遊びに取り入れている。木の実で遊ぶうちに自然の美しさや面白さ、不思議さを感じとり、興味を深めていきやすいテーマと考えた。

2. 活動スケジュール

9月～11月 複数回 木の実探し(数種類)、採集

木の実の整理(処理)、保管

9月～1月 複数回 木の実の活用を考える。

特徴調べをしてから、遊びの発展

(1回目とちのみのお風呂ごっこ(9月)、2回目無患子の玉転がし作り(1月))

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

木の実を入れる籠、保管用ケース、植物の図鑑、書籍、記録用パソコン

政策のための材料(箱、テープ、はさみ、のり)など

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①9月上旬雨の後から、椎の実や栃の実などがいつも訪れる保育先に落ち始める。その場で手に取り観察して、ままごと遊びなどに使う。可能な場合は採集する。
- ②園に帰り植物図鑑や木の実図鑑などを参考に種類や用途の違いなどをしらべ、洗ったり汚れを拭く。
- ③5歳児を中心にたくさん集まった実を使って小さい子が遊べるようにおもちゃを作ってあげたいと話が発展する。
- ④栃の実がたくさんバケツにためてお風呂をつくって、小さい子にお風呂ごっこを楽しんでもらった。無患子はボール転がしを紙材料で作リ、こちらも小さい子に遊んでもらうことを目的に張り切って作った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

①栃の実を拾った日に、少人数のグループで5歳児男子が中心となって「殻をむくと色々な形がある」と気づき、「二つ入っていたからふたご」「すべすべして気持ちいいから、たくさん集めたらもっと気持ちいい」と質感や形の特徴に周りの子も気づいていた。

数日後に拾った実を拭く時に子どもたちから「たらいにたくさん溜めて小さい子のお風呂にしよう」と話し、実際に小さい子の部屋に届けた。1歳児が木の実の感触を楽しむ様子が見られ、担当の大人にも感謝され、自信につながる経験となった。

②無患子の実拾いでは、黄色く透き通る殻の中に真っ黒の実が入っている対比が美しく、普段あまり自然物に興味を示さない子も手に取る姿が見られた。かたい実は落としてみるとぱちぱち音がして、「丸くてビー玉みたい」と質感を楽しんでいる子もいた。「むくろじ」の名前が不思議で、保育士と名前の意味を調べて、「子どもが病気で患わない」という謂れを知って「いい名前の実なんだね」とより印象深く知ることができた。

後日、紙材料を使って5歳児数名で協力し、玉転がしを作りあげ年少や2歳児の子にプレゼントしていた。「むくろじがこんなに採れたからこんないいゲームになったね」と作った子たちは満足そうだった。

写真は3ページ目に添付

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの発想する事柄は、自由で大人の予想とは異なった方向へ発展したことが面白く収穫であった。子どもたちの小さな気づきや「これやってみたい」という芽生えを見逃すことなく取り上げて実行できるためには少人数で活動行うことの大事さも感じた。

小さい子組やその担当者も自然と参加して大きい子の遊びに巻き込むことができ、一つの自然物から様々な展開を増やすことができ、よい教材になった。

空飛ぶ三輪車・秋津保育所

すくわくプログラム

2024 年度 活動報告 添付写真

秋の実りを楽しむ① 木の実拾いから生まれる遊び

